

## リア充を実現する仲間との出会い

私たちは、時間の流れの中で毎日を生きています。時間は有限かつ、取り戻すこともできないため、誰にとっても平等な唯一の資源と言えます。

今から20年も前のことです。現実の生活が充実している人のことを意味する「リア充」のネットスラングが流行しました。コンパやサークルに参加して周囲も羨む生活を送る大学生に対して友だちも彼女もいない人たちが、自分の生活と比較し、充実していないことを自虐的に表現した造語でした。そもそも充実とは、意識が時間を超越した時に表現する言葉です。しかし、リアルな充実が賞賛されるようになると、いくら時間を忘れるほど夢中になったとしても、人との関わりがなければ意味が無いと思われるようになりました。

本校の校長となって4年目を迎えました。不思議なことに「まだ30分もある」だった時間感覚は、「もう30分しかない」に変わりました。この感じ方の違いは、その時の状況や心の状態、さらには、年齢や経験によって長くなったり、短くなったりすると言われます。私の場合、仕事であっても多くの先生方とのリアルな関りが満足のいく「自分時間」へと変え、まさにリア充の日々となっています。

よく考えてみると、人が生きていくうえで大切なのは、学歴でも肩書でも経済的な豊かさでもなく、リアルで現実的な人と人との繋がりです。ネット社会となり、人と接触する頻度が極端に少なくなったためでしょうか、人との距離感が掴みにくく、コミュニケーションの取り方が分からなくなった人たちが多く見受けられます。悩みがあっても人に相談できず、一人で葛藤してしまう、何かつまずいたり、失敗したりすると他人に頼る方法が分からず直ぐに追い詰められてしまう、これらの特徴がその一例です。その結果、リアルな人間関係を求めるよりも、自分の都合に合わせてリセットやシャットダウンがいつでも可能となる仮想空間でのネットワークが重要視され、ストレスのない生活が充実度の物差しへと変わってしまったように感じます。

令和8年度が始まり、多くの新生が本校での学校生活をスタートさせました。入学式翌日には、恒例の部活動勧誘が行われると、学校の中庭や校舎内の廊下は「合唱部です、よろしくお願ひします!」「一緒に剣道をやりませんか!」「マネージャー募集しています!」一人でも多くの部員を獲得しようとする先輩たちの必死の声で溢れました。その熱い思いに応えるかのように新生が心動かされ、勇気ある一步を踏み出して加入の意志を伝えている光景は、どの部であってもとても頼もしく見えました。

入部の動機は、人それぞれ違うことでしょう。しかし、この日の新しい仲間との偶然な出会いがリアルな出来事として記憶に刻まれれば、学びの匂いとなって必然な運命となり、リアルで充実した青春が始まる事でしょう。頑張れ新生!

令和8年4月

